

第2回郡上市総合計画審議会 要録

- 【開催日時】 令和3年5月14日（金）13：30～14：50
- 【開催場所】 八幡防災センター研修室
- 【出席者】 委員：別添出欠名簿のとおり（出席22名、欠席8名）
事務局：市長公室長 日置 美晴、企画課長 入木田 瑞樹
政策推進課長 永瀬 浩臣、企画課長補佐 高田 和範
企画課長補佐 鷲見 一久

進行：企画課長

1. 開会 13：30

2. あいさつ

※上村会長

※日置室長

3. 今後のスケジュールについて

※資料1に基づき、事務局より説明

4. 協議事項（進行：会長）

（1）基本構想（案）について

会長：事務局より説明を求める。

事務局：資料3及びに第2次郡上市総合計画基本構想案について説明（企画課長補佐）

会長：基本構想案について意見を求める。

委員：基本構想のP40、P41に書かれている目標、方針、重点プロジェクト、P44の総合戦略の基本目標など、目標や方針がいろいろあってどれが上位なのか分かりにくい。本日示された資料3でかなりわかりやすく整理されているので、これに基づいて本編も整理されるとよい。また、P41からの分野別方針について、これは基本計画であると思うので、重点プロジェクトも含め題目だけにとどめて理解しやすいようまとめたほうがよいと思う。

事務局：ご指摘いただいた通り、基本構想については前期のものを踏襲し、内容を一部変更しただけにとどまっているので、修正を検討したい。

会長：各自持ち帰っていただき、内容をよく確認し、意見、質問、提案等あれば意見シートで後日事務局へ報告いただきたい、

(2) 基本計画(案)について

会 長：事務局より説明を求める。

事務局：資料2の意見シート及び基本計画の修正案について説明(企画課長補佐)

会 長：それぞれの所属部会において内容を協議していると思うので、本日は所属以外の分野について委員より意見を求める。

委 員：総合計画に定義されている家族が異性愛者を標準とした家族像のみが描かれている感じを受ける。個別には差別・偏見をなくすというような項目はあるが、例えば郡上に住みたいと思う人が同性愛者だった場合、これを見ると受け入れられていないという印象を持たれると思う。レズビアンカップルであれば、それぞれが精子提供を受けて子どもをもうける場合もあるし、特別養子縁組で子どもを育てる同性愛者のカップルもいる。若い世代から見ると、伝統的な家族観で作られている計画という感じがする。

事務局：LGBT等については、高校生によるみらい会議からの提案もあり、そういったところをどのように総合計画に掲載していくか議論を行った。総合計画は分野別に整理をしており、目標5方針2において誰もが尊重される地域社会を形成することを位置付け、施策として人権意識の高揚、男女共同参画の推進、多文化共生の推進を掲げた。具体的には、関連する個別計画で示されている。ご意見いただいた点については、起草委員会で再度協議し、表現方法等検討したいが、すべて掲載できるわけではないことをご理解いただきたい。

会 長：計画の中で、カタカナ言葉や漢字ばかりの言葉でわからない言葉がたくさんある。最終的には前回計画のように用語の説明がつくと思うが、そういう言葉が増えすぎてわかりにくくなっていると思うので、標記についても工夫してもらいたい。

事務局：最初の原案では今以上に横文字が多かった。行政で普段何気なく使っている言葉であるが、総合計画となると市民の皆様に分かっていただくという視点が必要になる。そうした言葉はできる限り見直しをするつもりである。ただし、例えばSDGsのように用語として固まってしまっているものについては、解説をつけていきたい。このところ話題となっているSDGsについて、その本質を考えると郡上市においては平成29年度から旗印として実施している「観光立志郡上」に通じる。地域の資源を磨いて宝にしていこうという取り組みで、いわゆる観光だけではなく、福祉、教育、環境すべてに関わるものである。この取り組みがローカル版SDGsと同義語ではないかと事務局では考えており、SDGsの取り組みをこれまで決して何もしていないわけではない。国際的に認知されているSDGsというものを、アイコンひとつで市はこういう取り組みをしているという「見える化」できるツールとして使用したいと考えている。

委 員：重点プロジェクトの「脱炭素社会プロジェクト」については、3つの部会のどこかで協議しているのか。

事務局：重点プロジェクトについての説明で、総合戦略との連携ということをお話した。

総合戦略は、地方創生推進会議で内容の検証等を行っているが、総合計画の重点プロジェクトでもあるので、委員の皆さんからもご意見をいただきたいと考えている。脱炭素プロジェクトについては、本年2月議会の冒頭で本市も2050年までに脱炭素社会を目指すという宣言を行った。その柱としては再生エネルギー、省エネ、ごみの減量、森林保全等あるが、どのように取り組んでいくかは今後検討することとなる。

委員：脱炭素社会プロジェクトを進めてもらうことは大変いいことである。しかし、先日トヨタ自動車の社長が、車のエンジンをすべて電気にするようなことも想定されるという発言もあった。SDGsの理念にも経済と社会の活動のバランスということがあるが、郡上市の就業者人口で最も多いのは製造業で、自動車産業に関わっている方も多。そういった事情も考慮しながらプロジェクトを進めていってほしい。

事務局：SDGsは、環境、社会、経済それぞれが一緒になって取り組むという活動である。ご指摘の件で言えば、カーボンプライシングという取り組みがあり、ヨーロッパでは、製造段階から発生する二酸化炭素を計算し、輸出の際に製造工程まで含めて関税のような形で加算することが検討されている。自動車産業においては、大手の考え方で下請け孫請け業者は動かざるを得ないところがあることは承知している。今後国策として変わっていく部分については、それを受けて市として何が対応できるか研究し進めていきたいと考える。

委員：SDGsとか小さな拠点とネットワークとか、今の時代に合ったように変更しているのは良いと思う。今回、指標の設定と目標値について、目指す姿にリンクさせる必要があり、設定に非常に苦労されたのではないかと思う。部会での検討となるが、例えば目標3方針2施策3のこころの健康づくりの推進の指標について、「悩みの相談窓口を知っている人の割合」となっているが、なぜこのような指標になっているのかの裏付けが知りたいと思うし、逆にこの指標としたがそれでいいか不安があるなどの思いも聞きたいと思う。

事務局：この指標を設定するにあたり、皆様にお示しはしていないが、ロジックシートというものを作成した。それぞれの施策の取り組みを具体的に記載し、その結果はどうなるのか、その成果はなにかということを整理した。そのシートから施策の目指す姿を現す代表的な指標を選んでいる。また、その指標について、なぜその指標を設定したか、目標値の根拠について、指標設定調書に整理している。指標設定調書については、前回の部会で皆様にお渡ししているもので、調書もあわせてこの計画書を見ていただき、次の部会でご意見をいただきたい。

会長：協議事項については、これで終了する。

5. その他

- ・意見書の提出についての連絡
- ・みらい会議空の提案書についての連絡

6. 閉会 14:50

※山下副会長